

# 嗚呼青春の

(昭和五年寮歌)

児山信蔵君 作歌  
有村徹君 作曲

## 一

嗚呼青春の夢高く  
理想のあとに憧憬れて  
榆の花散る学都にぞ  
啓示を求む若人は  
綺花を流して逝く水に  
十九の春を嘆くなり

## 二

牧場の緑草踏みしだき  
栗毛の駒に鞍置きて  
うち振る鞭の音も高く  
希望の太空を朗らかに  
寮歌を歌ひつ眺むれば  
白雲流れゆく手稲山静か

## 三

学堂の古鐘の沈みゆき  
榆陵の蒼空に銀月冴えて  
羊の群の片影もなし  
沈黙の原始林に散りしける  
落葉踏みゆく雄き子は  
三年の絢夢に涙する

## 四

疎林のほとり夕陽は落ちて  
閑さへも絶えし真夜に  
涯なく白き石狩の  
銀雪に連なる曠野の静寂  
震はせ乍ら橈唄は  
神秘の闇を縫ひてゆく

## 五

北斗は遠く七星清し  
「妄執」の現世を見下して  
真実一路の迪恵ぬ  
「意気」と「血潮」に生くる子の  
瞳に燃ゆる紅焰は  
永遠なる生命の証なり